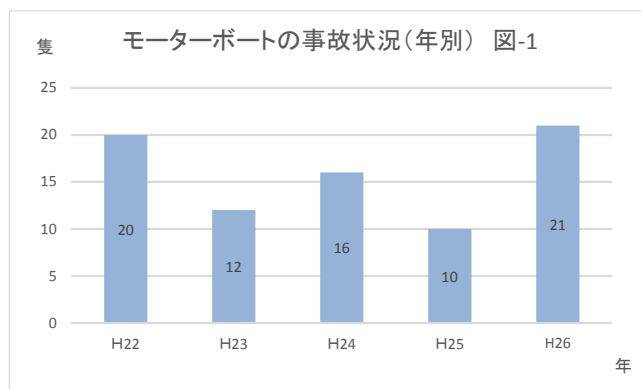


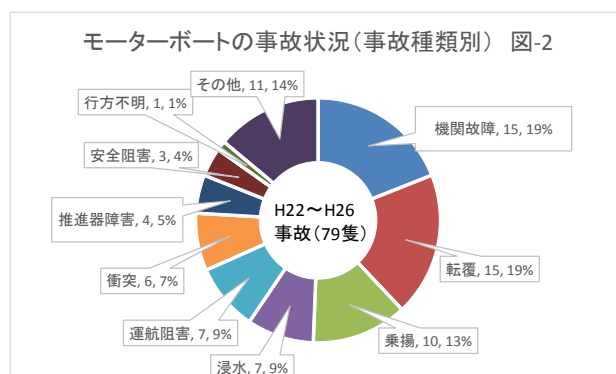
沖縄県周辺の海域におけるモーターボートの事故

1 事故の状況

平成 22 年から平成 26 年の 5 年間に発生したモーターボートの事故は、79 隻（16 隻／年）でした（図-1）。



事故種類別では、機関故障及び転覆が最も多く 15 隻(19%)、次いで乗揚 10 隻(13%) でした（図-2）。



○ 機関故障

機関故障のうち不可抗力等により事故に遭ったものを除いた事故は 11 隻でした。そのうち 7 隻(64%)が発航前点検を未実施でした。

発航前点検の状況 図-3

		人為的要因	不可効力等
機関故障		11(100%)	4
発航前点検	有り	4(36%)	
	無し	7(64%)	

7 隻の発航前点検未実施の事故のうち 6 隻(86%)が燃料系の故障、1 隻(14%)が電気系の故障でした。

また、燃料系故障のうち 3 隻(43%)が燃料こし器の目詰まりでした。

発航前点検未実施事故の故障状況 図-4

	故障内容	隻	%
燃料系	燃料こし器の目詰まり	3	43
	燃料管(ゴム製)の亀裂	1	14
	キャブレターの不調	1	14
	燃料管空気抜きバルブの緩み	1	14
電気系	ウォータージェット点検口のセンサー不良	1	14
計		7	100

○ 転覆

転覆事故の原因のうち気象海象不注意及び避難事故不適切の5隻について、事前に気象海象を把握していたものは3隻(60%)、運航中も気象海象の把握をしていたものは1隻(20%)であった。

転覆の主原因 図-5

主原因	隻数
操船不適切	5
気象海象不注意	4
荒天準備不良	3
避難時期不適切	1
航路標識等誤認	1
原因不明	1
計	15

2 海難防止対策

○ 発航海前点検の実施

出港前には、チェックシート等を用いて確実な発航海前点検を実施し、不具合がある場合は出港を取り止めて下さい。

○ 気象海象の把握

出港前には、気象海象の把握を行い荒天が予測される場合には、出港を取り止めて下さい。

また、出港後も気象海象の情報はこまめに確認し、急変が予測される場合は早期帰港に勤めて下さい。

海上保安庁がサービスを実施している沿岸域情報提供システム(MICS)では、注意報・警報のメールサービスを実施しています。活用下さい。